

騒音制御

JOURNAL OF INCE/J

Vol.44 No.6 2020.12

特集 騒音振動の測定・評価における課題と解決例

総論

特集にあたって……………和久田晃子・石井 要次
解説

日本産業規格JIS Z 8731:2019「環境騒音の表示・測定方法」の概要……………今泉 博之・橋 秀樹
山田 一郎・大屋 正晴・篠原 直明
長倉 清・福島 昭則・横島 潤紀

技術資料

道路交通騒音の測定・評価における注意点と盲点……………福島 昭則
鉄道沿線騒音に関わる測定の課題と評価例……………小方 幸恵
航空機騒音測定における課題と解決例……………篠原 直明
建設機械の騒音測定における課題と解決例—建設機械の騒音を低減する新技術の測定方法と評価—
……………佐野 昌伴
設備騒音の測定における課題と解決例……………白木 秀児
(超)高周波音の測定における課題と解決例の紹介……………上田 麻理

低周波音の測定における課題と解決例……………矢野 博夫
純音性騒音の心理評価における課題と解決事例

……………横山 栄
環境騒音を対象にした音響心理実験における課題と解決例……………森長 誠
交通振動の測定・評価における課題と解決例……………林 健太郎

精密工場における工事振動モニタリング……………小島 宏章・中村 充
小規模建設工事振動の測定・評価における課題と解決例……………平尾 善裕
適切な騒音・振動の測定機器の選定……………菊地 哲
投稿一論文

背後空気層を有する背面穿孔ハニカム板の吸音特性—2自由度モデルに基づく考察—
……………井上 尚久・孔 敬受・佐久間哲哉
書評
騒音・振動……………山田 一郎

騒音・振動

山本貢平 編著

一般社団法人 日本音響学会編 音響学講座 4

株式会社 コロナ社

定価：4,800 円＋税

2020 年 4 月 13 日初版発行

ISBN 978-4-339-01364-1 C3355



本書は、騒音・振動・低周波音の3分野の基礎知識および最新の研究成果を、大学院や社会人向けの教科書として利用できるよう、ある程度学説的に固まった内容について記述することとして出版された書籍である。本書の章立ては、3分野の大分類のもと、国際会議などで使われるセッションの区分を参考に構成してあり、本学会会員にも馴染みやすいものになっている。本書は総勢20名ほどの共著者により執筆された本であるが、編著者を始め大半の方が本学会の活動をリードしている方々でもあるので本書の内容の充実や記述の確かさは言うまでもない。本書の各章の冒頭にその章の内容を示すテーマとキーワードを並べてあり、読者が利用しやすい

よう工夫してあるのも好ましい。

騒音・振動は、工学のみならず、医学や理学、社会科学まで含めた広範な分野にまたがる複合的な学問である。わが国における騒音・振動の研究は日本音響学会における活動を端緒とするが、日本音響学会は、騒音・振動の制御を学会名に持ち、産官学の方々を会員とする本学会の出身母体でもある。日本音響学会は、1977年以来、音響工学講座全8巻を刊行し、音響学の発展に貢献してきた。だが、近年の急速な技術革新や分野拡大に必ずしも追従できなくなっているため、新たに音響学講座全10巻を発行することにしたという。本書は、その第4巻として出版されたものである。以前の音響工学講座は、その当時社会問題にもなっていた騒音・振動に2巻を割り当てていたが、昨今の学会における研究発表の状況等を見て1巻にまとめることになったようだ。騒音・振動の制御技術を主たる研究対象とする本学会としてはいささか寂しいことであるが、これから展開が期待される分野、話題を取りまとめた第10巻「音響学の展開」を新たに刊行するという事なので期待したい。

ところで、本学会の刊行物は、実務者らに向けたハンドブックや手引き書と広く一般の方々を対象に騒音振動問題を分かりやすく解説する啓発的な読む本であるおはなしシリーズが主である。本年10月、本学会から、おはなしシリーズの一冊「低周波音のおはなし」が出版されたところであるが、その著者の一人は、この書評で紹介している「騒音・振動」の低周波音の章の執筆者でもある。同じ素材も視点と書き方を変えて料理をすれば風味も滋養も変わる。会員の皆様には是非、両書を手に取り、読み比べていただきたい。本学会の出版物には教科書としての活用を念頭においた書籍は少ないと思われるので、本書「騒音・振動」を基盤的な書物として活用していただきたい。本書は、常々の研究や仕事においておおいに参考になる内容を持った有用な一冊であることを確信している。

(名誉会員・リオン 山田一郎)